



世界に希望を生み出そう

2023~2024 年度
国際ロータリーのテーマ

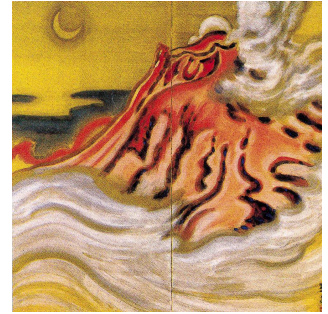
Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

◆例会日/週木曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階

◆会長 / 鴨下 直哉 ◆副会長 / 青松 英和
◆幹事 / 両川 博之 ◆広報・情報委員長 / 小山 等

NO. 1598 令和6年2月29日



◆点鐘	鴨下 直哉 会長
◆SAA	倉本 浩行 委員長
◆ソング	奉仕の理想
◆ゲスト	渡辺 史郎 様

受付 12:30~開始 13:00

会場: 塩尻市市民交流センター(えんぱーく)401 号室
塩尻市大門一番町 12-2

登録料: 3,000 円

懇親会参加料(参加される方): 3,000 円

【会長挨拶】鴨下 直哉 会長

昨日 2 月 28 日なでしこジャパン対北朝鮮大一番で敗れた北朝鮮代表チームの気になる今後は——勝利して本大会の出場権を獲得した。日本が歓喜に沸く一方で、北朝鮮はリ・ユイル監督が試合後に号泣しながら謝罪。この一戦は北朝鮮でも関心が高く、今後はチームに“厳罰”が下される可能性も決して否定できない。五輪切符をかけた最終決戦は、試合前から異様な雰囲気漂った。アウェーゴール裏には 3000 人超の北朝鮮応援団が集結。在日本朝鮮人総連合会生徒らを中心に動員された。試合の約 2 時間前には集まって巨大な国旗を掲げ、試合が始まると一糸乱れぬ応援で大きな声援を送った。しかし奮闘むなしく敗戦が決まると、選手は悲壮な表情を浮かべて落胆。試合後の会見では、リ・ユイル監督が号泣しながら敗戦を“ざんげ”した。会見の最後に朝鮮総連の機関紙「朝鮮新報」から「日本各地で同胞たちが熱い応援を送っていた。同胞たちに一言お願いします」との質問を受けた。すると監督は、約 30 秒間おえつしながら涙を流し、言葉を詰まらせる。ようやく話し始めると「日本全国から私どもに声援を送ってくださいました同胞のサポーターの皆さまに、良い結果を出せず申し訳ない気持ちでいっぱいです」と異例の謝罪。「これから良いプレー、良い試合を見せられるように努力していきたいと思います」と悲痛な表情で言葉を絞り出し、その様子を見届けた北朝鮮メディアからは拍手が起りました。

2. 第28回小諸高等学校音楽科演奏会の開催について(ご案内)

・日時: 2024 年 3 月 9 日 場所: 軽井沢大賀ホール
開場 13:30~ 開演 14:00~

・日時: 2024 年 3 月 10 日 場所: 長野市芸術館
開場: 13:30~ 開演 14:00~

入場料: 無料

出演者: 音楽科 1・2 年生 音楽講師

3. 例会変更

上田 RC 3月25日(月) 定刻受付なし
4月29日(月) 定刻受付なし
5月 6日(月) 定刻受付なし
5月27日(月) 定刻受付なし
6月24日(月) 定刻受付なし

小諸 RC 3月20日(水) 定刻受付なし
佐久コスモス RC 3月11日(月) 定刻受付なし
4月 8日(月) 定刻受付なし
4月29日(月) 定刻受付なし

週報第1597号、下半期プログラム(改訂版)

◆出席報告 小林 秋生 委員

会員数 19名 出席義務者 18名 免除者 1名
本日 出席 17名
事前 MU 1名 94.44%
前々回(2/1) MU 0名 94.74%

◆委員会報告

出席・プログラム委員会 橋詰希望 委員長
5 月合同例会変更の件

【幹事報告】両川 博之 幹事

1. 国際ロータリー地区事務所より

2023-2024 年度 RLI 卒業コースのご案内と参加募集

日時: 2024 年 3 月 30 日(土)

クラブ広報・情報委員会 小山 等 委員長
 小諸新聞に掲載 八朔相撲の陣羽織贈呈式
 クラブ運営委員会 倉本浩行 委員長
 3/7 日創立夜間例会です
 委員は 30 分前に集合してください

◆ラッキー賞

No.11 田中陽介 君

◆ニコボックス 小池 平一郎 委員

鴨下 直哉君	本日は渡辺史郎先生、卓話「教育雑感」ありがとうございます。
青松 英和君	75 回目の誕生日です。お祝いありがとうございます。
両川 博之君	会員セミナーをたくさんの参加を願います。
橋詰 希望君	渡辺先生、今日はありがとうございます。青松さん、誕生日おめでとうございます。
小池平一郎君	渡辺先生、今日はよろしく願い致します。

加藤 輝男君	皆様ご苦労様です。又、渡辺先生、今日はお忙しいところ、ありがとうございます。先日 IM セミナーに出席致しました。最後に佐久総合病院の院長渡辺様からの講演があり、その中で人間の健康について話があり、お酒の話ですが、人間の体でお酒を飲む時 2 日で 1 合のお酒を飲むのが一番健康には良いそうです。
田中 陽介君	三寒四温、春が待ち遠しい季節です。渡辺先生の教育雑感楽しみです。

【本日のプログラム】卓話「教育雑感」 渡辺 史郎 様



「教育雑感」と言いましても、昔も今も教育に関わる課題は常に多種多様かつ変化が著しく、短時間で語ったり、話し合ったり出来る事柄ではありません。現在は、教員のなり手不足、教員の超過勤務のこと、いじめ、不登校、高校受験、大学受験、一貫教育など列挙すれば限りがありません。

今日は、子ども中心社会、特に学校教育について、出来るだけ事実に基づいて私の全くの主観を話させていただければと思います。少子化の影響もある中で今は全国津々浦々、子ども第一の考えが行き渡っています。学校で言えば、子ども一人ひとりの能力、特性に応じた「個別最適な学び」の重要性が指摘されています。県教育委員会は来年度一般会計予算に従来の一斉授業を転換させる取り組みを盛り込み、2027年度の県内半数以上の小中学校で「自由進度学習」を導入したいとしています。「自由進度学習」というのは他教師が時間内の習得目標を設定し、早い子、あるいは早いグループはどんどん先に進み、つまずく子あるいはグループには一斉授業よりも先生がより寄り添って指導ができる。その結果、どんな子も積極的に学習参加できるようです。私の疑問は「早い

子」を一層伸ばす手立てはどうするか。「つまずく子」のつまずき方は多様で、一人の先生で間に合うのか。いずれにせよ、教師への志願者減が続くなかで優れた教員のより多くの採用が保障されなければならないと思います。極めて多難な前途ではないかというのが現在の私が抱いている大きな不安です。

子ども中心社会に関わって、別の角度から佐久長聖高校駅伝部について話をさせていただきます。全国都道府県駅伝長野県3連破、優勝10回という全国に誇れる成果は広く県民の共有するところとなっています。県選手団は佐久長聖駅伝部や卒業生が中心となって構成されています。長聖の駅伝部はどうしてこのように強くなったのか。高校の運動部といえば監督です。礎は両角速監督、後継は高見澤勝監督の師弟関係の二人です。佐久長聖の校是は創設者、故市川千晃氏が掲げた「礼節、忍耐、誠実」であり、何も無いところから駅伝部を任された両角監督は指導理念をこの校是に求めました。この三つの言葉は、生徒、先生、学校職員すべてに求められました。具体的に自分はもちろん部員に何を課したらよいか両角監督が考えたことが「普段の生活」です。授業、清掃、挨拶、草取り、石拾い、これらのことが実践できること、即ちこれが人間力です。「人間力で闘う」という本は両角監督が語ったものを北原さんという女性の文筆家が聞き取り書物にしました。佐久長聖駅伝部の走力は実は人間力によるものではなかったかと思っています。

子ども中心の教育という観点から上記二つのことについて述べさせていただきましたが、一人ひとりの子供や選手に寄り添うという点では共通し、最初は強制的に導くという点では大きな隔たりがあるように思えます。また小中学生と高校生という違いもあるかも知れません。とにかく、「楽しい学校」が「楽(ラク)な学校」にならないように注意して、達成感から生まれる真の喜びが味わえる学校であって欲しいと思っています。

次週のプログラム : 3月 7日 創立夜間例会

次々週のプログラム : 3月 14日 青少年活動報告